

# 読書の旅、羅針盤

昭和学院中学校高等学校図書館

おすすめ図書 100 冊

<中学校>



図書館内吹き抜け部分

<リストの見方>

読んだらこの欄に  
チェック(✓)しましょう

No.	表紙	「書名」 著者名(生没年) 出版社/叢書名[出版年]
教科	分類記号	内容紹介

1		「情報って何だろう」 春木良且 岩波ジュニア新書457[2004] 目に見えない「情報」と正しく付き合うためのヒントが載っている。情報化社会を生き抜くガイド。	8		「いしぶみ—広島二中一年生全滅の記録」 広島テレビ放送/編 ポプラ社[2008] 昭和20年8月6日、原爆で全滅した広島二中の生徒たちの記録。困難な状況の中でもせいいっぱい生きた中学生がいた。
情報	007			210	
2		「読書力」 齋藤孝(1960-) 岩波新書801[2002] 本を読むことの意味は何か? 読書によって身に付く力をわかりやすく解説。読書の本質にせまっていく。	9		「正伝 野口英世」 北篤(1926-) 毎日新聞社[2003] 同郷である著者が、事実の究明に時間をかけて、野口英世(1876-1928)の人間像を浮き彫りにした書。
	019			289	
3		「14歳の君へ—どう考えどう生きるか」 池田晶子(1960-2007) 毎日新聞社[2006] 考え方や生き方をわかりやすく語る哲学の本。同氏の「14歳からの哲学」をやさしく解説したもので読みやすい。	10		「ライト兄弟」 ラッセル・フリードマン、松村佐知子/訳 信成社[1993] 人類初の動力飛行機を作り、大空に飛び立ったライト兄弟(ウィルバー1867-1912、オーヴィル1871-1948)の生涯を描く。
	159			289	
4		「二十一世紀に生きる君たちへ」 司馬遼太郎(1923-1996)世界文化社[2001] 現在購入できません。図書館で借ります。 「子どもは何をしなくてはならないのか?」「人は何のために生きるのか?」21世紀を迎えた日本人へのメッセージ。	11		「天と地を測った男 伊能忠敬」 岡崎ひでたか、高田 勲/画 くもん出版[2003] 江戸時代後期、江戸から北海道蝦夷地まで測量し、初めて日本地図を作った郷土の偉人・伊能忠敬(1745-1818)の生涯。
国語	159			289	
5		「道は必ずどこかに続く」 日野原重明(1911-) 講談社[2009] 自分らしさを見つけるために、何を考えどう行動したらよいのか? 人生の大先輩から中学生へ贈るメッセージ。	12		「アインシュタイン16歳の夢」 戸田盛和 岩波ジュニア新書493[2005] 「光速で光を追いかけたらどう見えるだろう」アインシュタイン(1879-1955)が16歳の時に抱いた疑問は相対性理論へ。
	159			理科	289
6		「君たちはどう生きるか」 吉野源三郎(1899-1981) 岩波文庫[2003] 中2のコペル君の精神的成長を通して、生きることを考える。正しい生き方を考えるのは、人間が人間である証拠。	13		「レイチェル・カーソン」 ジンジャー・ワズワース、上遠恵子/訳 信成社[1999] 1960年代に環境問題を「沈黙の春」で告発したレイチェル・カーソン(1907-1964)。自然好きの少女が生物学者に成長。
社会	159			289	
7		「絵で読む広島の原爆」 那須正幹(1942-) / 文、西村繁男 / 絵 福音館書店[1995] 生存者の証言をもとに再現された広島町の町と、そこに暮らす人々の様子が描かれている。完成まで6年かけ、資料を収集。	14		「マザー・テレサ かぎりない愛の奉仕」 沖守弘 くもん出版[2002] マザー・テレサ(1910-1997)の写真を撮る許可を得た唯一の写真家が綴る貴重な評伝。その生涯と著者との交流を語る。
	209			289	



15		「キュリー夫人」 ドーリー、橘谷繁雄/訳 講談社火の鳥伝記文庫5[1981] 二つのノーベル賞(物理学・化学)を受賞したキュリー夫人(1867-1934)のひたむきに生きた姿を描く。	289
16		「キング牧師のカブよいことば」 ドーリー・ラバポート、もりうちすみこ/訳 ブライアン・コリアー/絵、国土社[2002] アメリカの人種差別問題でノーベル平和賞を受賞したキング牧師(1929-1968)の力強い言葉と愛と勇気に満ちた生涯。	289
17		「未来への地図」 星野道夫(1952-1996) 朝日出版社[2005] 市川市出身の写真家・星野道夫が、未来へ向かう若者たちへ珠玉の写真とともに贈るメッセージ。	295
18		「世界がもし100人の村だったら」 池田香代子(1948-) マガジンハウス[2008] 2001年に出版されたシリーズ1作目から7年を経て、最新データによる全面改訂版完結編。世界の現状と未来への展望。	304
19		「海をわたる被爆ピアノ」 矢川光則(1952-) 講談社[2010] ピアノ調律師である著者が偶然出会った広島市の被爆ピアノ。その音色を聴かせる中でふくらむ平和への思い。	319
20		「井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法」 井上ひさし(1934-2010)、 いわさきちひろ/絵、講談社[2006] 平和憲法の精神を表している「前文」と「第九条」をわかりやすい言葉で書いた絵本。重要な条文の内容も解説。	323
21		「新13歳のハローワーク」 村上龍(1952-)、はまのゆか/絵 幻冬社[2010] 好きな教科を入口に様々な職業を紹介する仕事の大百科。603の職業を網羅。教科以外の特別編もあるよ。	366
22		「季節のお楽しみ12か月子ども歳時記」 広田千悦子 扶桑社[2009] 若い世代に伝えたい日本の行事・四季折々の懐かしい遊び・おいしい手作りなどをイラストとともにやさしく解説。	386

23		「日本の昔話」 柳田国男(1875-1962) 新潮文庫[1983] 私たちが育んできた昔話の数々を、民俗学の先達が各地から集めて美しい日本語で後世に残そうとした名著。	388
24		「科学と科学者のほなし」寺田寅彦エッセイ集 池内了/編 岩波少年文庫510[2000] 日常生活の身近なことから細やかに観察しながら、科学的に考えることのおもしろさを綴った物理学者による随筆。	404
25		「センス・オブ・ワンダー」 レイチェル・カーソン、上遠恵子/訳 新潮社[1996] No.13で紹介したレイチェル・カーソンの最後のメッセージ。子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる。	404
26		「わたしの庭」 今森光彦(1954-) クレヨンハウス[2005] 里山の写真家として有名な著者が、四季折々の身近な草花・虫・景色を美しい写真と文章で綴る写真絵本。	407
27		「数の悪魔」—算数・数学が楽しくなる12夜 エンツェンスベルガー(1929-)、 丘沢静也/訳、晶文社[1998] 算数が大嫌いなロバートの夢に現れた数の悪魔による真夜中のレッスン。果てなく不思議な数の世界を楽しめる本。	410
28		「ハッピーになれる算数」 新井紀子(1962-) イースト・プレス[2011] 「数学がわからない」と思う前に、算数に戻ってそもそもの仕組みを考えてみよう。宿題と解答付きでやさしく解説。	410
29		「ぼくらはガリレオ」 板倉聖宣(1930-) 岩波現代文庫[2011] ガリレオ(1564-1642)的思考を持って、仮説を立てながら実験・確認を行っていく授業記録。実験の疑似体験ができる。	423
30		「海は生きている」 富山和子(1933-) 講談社[2009] 地球の温暖化で変わりつつある海。これだけは知っておきたい海の基本的な性質や海と日本人の関係を説明。	452

31		「せいめいのれきし」 バージニア・リー・バートン(1909-1968)、 石井桃子/訳、岩波書店[1979] 地球上に生き物が誕生してから人類に至るまでの生命の長い歴史をわかりやすくイラストとともに語るロングセラー絵本。	461
32		「絵ときゾウの時間とネズミの時間」 本川達雄(1948-)、あべ弘士(1948-)/絵 福音館書店[1994] 大きい動物と小さい動物とは、一生の時間も変わってくる。中公新書「ゾウの時間ネズミの時間」のわかりやすい絵本版。	481
33		「ソロモンの指環」 コンラート・ローレンツ、日高敏隆/訳 ハヤカワ・ノンフィクション文庫[1998] ノーベル賞受賞の生物学者ローレンツ(1903-1989)が、動物たちの生態を生きたときと描く不朽の動物学エッセイ。	481
34		「シートン動物記」(全15巻) アーネスト・T・シートン/文・絵、 今泉吉晴/訳、童心社[2009-2011] イギリス出身のアーネスト・トンプソン・シートン(1860-1946)は博物学者・作家・画家。大自然の中の動物たちの記録。	480
35		「ファール昆虫記」(全10巻) ジャン＝アンリ・ファール、奥本大三郎/訳 集英社[2005-現在8巻まで出版] フランスの生物学者ファール(1823-1915)は、昆虫の行動研究の先駆者。約30年かけて昆虫記を著した。	486
36		「世界で一番いのちの短い国」 山本敏晴(1965-) 白水社[2002] 世界で最も医療事情の悪い国で、国境なき医師団から派遣された若い情熱的な医師が本当の国際協力を目指して奮闘。	498
37		「水はめぐる」もしも地球がひとつの井戸だったら ロシェル・ストラウス、的場容子/訳 ローズマリー・ウッズ/絵、汐文社[2008] 地球上のすべての水はつながっている。今そのたったひとつの井戸が危機にさらされている。地球環境を考える絵本。	519
38		「小惑星探査機はやぶさの大冒険」 山根一眞(1947-) マガジンハウス[2010] 2010年6月13日、7年間にわたる宇宙航海を終えて帰還した「はやぶさ」の全プロセスを取材し、試練の日々を語る。	538

39		「12歳からのインターネット」 荻上チキ(1981-) ミシマ社[2008] インターネットの事故を防ぐため、気鋭の評論家がネットいじめや学校裏サイトなど、ネット関連問題をわかりやすく解説。	547
40		「食材を使い切るの」 青木敦子 扶桑社文庫[2009] 目の前にある食材の切れ端は工夫ひとつで活用できる。工夫、アレンジのヒントを覚え、日々の生活に活かそう。	596
41		「森は生きている」 富山和子(1933-) 講談社[1994] 人間の暮らしの中で森がどのように関わってきたか、森林のもつはたらきや森林を育てる意味を解説。	650
42		「モッタイナイで地球は緑になる」 ワンガリ・マータイ、福岡伸一/訳 木楽舎[2005] 2004年ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ(1940-2011)。日本語の「モッタイナイ」を国際語として広める。	654
43		「絵の教室」 安野光雅(1926-) 中公新書1827[2005] 有名画家たちのたくみや情熱の跡をたどり、美の宇宙の源泉を旅する。絵画の奥深い世界、美について考える。	720
44		「絵をみるヒント」 窪島誠一郎(1941-) 白水社[2006] 著者は戦没画学生慰霊美術館「無言館」を開設。絵の前に立つ行為とその周辺をやさしく語る。	720
45		「裸の大將一代記」山下清の見た夢 小沢信男 筑摩書房[2000] 市川の八幡学園で絵を覚え、「日本のゴッホ」「裸の大將」と呼ばれた山下清(1922-1971)の生涯と作品を解説。	723
46		「かぎりなくやさしい花々」 星野富弘(1946-) 偕成社[1986] 詩と絵を通して生命の素晴らしさを伝える詩人作家・星野富弘の少年時代から怪我、結婚までの半生を写真とともに語る。	723



47		「迷宮美術館」(第1集-第5集) NHK「迷宮美術館」制作チーム 河出書房新社[2006-2008] NHKテレビ放送の「迷宮美術館」の世界を凝縮。名画に秘められた謎や不思議、画家の人生に隠された真相などを案内。
美術	726	
48		「Michio's Northern Dreams」(全6巻) 星野道夫(1952-1996) PHP文庫[2005-2006] 市川市出身の写真家・星野道夫の多くの未発表写真と魂を揺さぶる言葉の数々。厳しい自然の中に息づく生命の声。
	748	
49		「戦場のピアニスト」 ウワディスワフ・シュビルマン(1911-2000) 佐藤泰一/訳、春秋社[2003] 第二次世界大戦のユダヤ人迫害から生き延びた実在のピアニストが廃墟をさまよう感動作。2002年、映画化された。
音楽	762	
50		「スポーツを楽しむための基礎知識」 藪根敏和ほか 不味堂出版[2005] スポーツを楽しむために必要な知識を、写真図版を多用して解説。スポーツに対する興味を深めてくれる本。
体育	780	
51		「NHKスポーツ大陸」(全4巻) NHK「スポーツ大陸」制作班/編 金の星社[2010] NHKテレビ放送の「スポーツ大陸」の内容を収録。限界に挑戦するアスリートたちが様々な壁をどう乗り越えてきたのか。
体育	780	
52		「英語辞書の使いかた」 外山滋比古(1923-) 岩波ジュニア新書69[1983] 英語の辞書についてだけではなく、おなじみの日常的な英単語に関する楽しいエッセーもあり親しめる内容。
英語	800	
53		「世にも美しい日本語入門」 安野光雅(1926-)、藤原正彦(1943-) ちくまプリマー新書027[2006] 数学者・藤原正彦の小学時代の図工の先生が画家・絵本作家の安野光雅。この二人が名文に親しむ大切さを語る。
	810	
54		「ピーター流外国語習得術」 ピーター・フランク(1953-) 岩波ジュニア新書343[1999] 数学者で大道芸人の著者は、12か国語を操る。その経験を活かし外国語を習得する方法を徹底的に伝授する。
英語	830	

55		「詩のころを読む」 茨木のり子(1926-2006) 岩波ジュニア新書9[1980] 長年詩を書き、多くの詩を読んできた著者が数々の詩の中から心を豊かにする忘れたがたい詩を選びその魅力を語る。
	911	
56		「わたしと小鳥とずっと」 金子みすゞ(1903-1930) JULA出版局[1984] 金子みすゞが遺した512編の詩の中から、まず最初に読んでほしい60編を選んだ珠玉の童謡選集。
	911	
57		「小さき花」 加島祥造、金澤翔子/書 小学館[2010] 加島祥造(1923-)の詩と、詩からインスピレーションを受けて自由に書いたダウンスの書家・金澤翔子(1985-)の書。
	911	
58		「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治(1896-1933) 新潮文庫[1989] 貧しくて孤独な少年ジョバンニが、親友カムパネルラと銀河鉄道に乗って夜空を旅する永遠の未完の傑作。
	913	
59		「二十四の瞳」 壺井栄(1900-1967) 偕成社文庫4007[1995] 小豆島の分教場に赴任したおなご先生と12人の子どもの心の交流を描く。戦争否定、人間の平等がテーマ。
	913	
60		「坊っちゃん」 夏目漱石(1867-1916) 偕成社文庫3157[1988] ユーモアたっぷりの元祖学園ドラマ。江戸っ子で無鉄砲、正義派の坊っちゃんが四国は愛媛の中学に赴任して・・・。
	913	
61		「鬼の橋」 伊藤遊(1959-)、太田大八(1918-)/画 福音館書店[1998] 平安初期に実在した小野篁(802-853)の少年時代を主人公に、思春期の揺れ動く心を描くファンタジー。
	913	
62		「精霊の守り人」 上橋菜穂子(1962-)、二木真希子/絵 偕成社[1997] 女用心棒バルサを主人公に、人間の世界と精霊の世界を描いたハイファンタジー。守り人シリーズの1巻目。
	913	

63		「風が強く吹いている」 三浦しをん(1976-) 新潮社[2006] 箱根駅伝に初挑戦する若者の姿を描く。長距離を走る=生きるために必要な真の強さをさわやかに謳い上げる。
	913	
64		「マヤの一生」(棕鳩十全集15) 棕鳩十 ポプラ社[1981] 棕鳩十(1905-1987)が自身の体験をもとに、戦争がもたらす悲劇を子どもたちに伝え平和を願う気持ちをこめた作品。
	913	
65		「白狐魔記」シリーズ 齊藤洋(1952-)、高島純/画 偕成社[1996-] 仙人のもとで修行したキツネ・白狐魔丸が歴史を旅しながら人間とは何かを探求するタイムファンタジー。現在5巻まで。
	913	
66		「定本 岳物語」 椎名誠(1944-) 集英社[1998] 少年が様々な冒険や体験を通して大きく成長していく物語。息子と父親のやりとりで心温まる。完全版。
国語	913	
67		「西の魔女が死んだ」 梨木香歩(1959-) 新潮文庫[2001] 中学校へ行けなくなったまいは、祖母のもとで「魔女修行」をすることになった。生きる力を与えてくれる癒しの物語。
国語	913	
68		「赤い蠟燭と人魚」 小川未明(1882-1961)、酒井駒子/絵 偕成社[2002] 幸せになると信じて人魚の母は娘を人間に託した。老夫婦は娘を慈しみ育てたが、やがて金に心を奪われてしまう。
国語	913	
69		「路傍の石」 山本有三(1887-1974) 新潮文庫[2003] 厳しい境遇におかれながらも、自立した人間になろうとひたむきに努力する少年の成長物語。
国語	913	
70		「算法少女」 遠藤寛子(1931-) ちくま学芸文庫[2006] 江戸庶民の間で生き生きと広がっていった和算の物語。学ぶことの楽しさ、喜びが描かれている。
数学	913	

71		「夏の庭」 湯本香樹実(1959-) 新潮文庫[2001] 三人の少年と孤独な老人のかけがえのない夏を描き、世界十数カ国で出版され、映画化もされた話題作。
	913	
72		「杜子春・くもの糸」 芥川龍之介(1892-1927) 偕成社文庫3065[1978] 人間の本质と人生の機微をきびしくもあたたかい目で見つめた傑作集。「鼻」「芋粥」など名作12編を収録。
	913	
73		「ビルマの堅琴」 竹山道雄(1903-1984) 新潮文庫[1949] 戦争で絶命した同士たちのため、水島は一人、ビルマに残った。平和への祈りをこめた戦争犠牲者たちへの鎮魂の書。
	913	
74		「古事記物語」 福永武彦(1918-1979) 岩波少年文庫508[2000] 8世紀に書かれた「古事記」。スサノオノミコトの大蛇退治、いなばの白うさぎなど日本民族の息吹を伝える神話の数々。
	913	
75		「五体不満足 完全版」 乙武洋匡(1976-) 講談社文庫[2001] 障害は不便だが不幸ではないと言う。両手両足がなくても、明るく元気に暮らす著者の生きる力とは？
	914	
76		「折り鶴の子どもたち」 那須正幹(1942-) PHP研究所[1984] 広島で被爆し白血病で亡くなった12歳の少女の物語と、原爆の子の像を建立したクラスメイトのドキュメント。平和への思い。
	916	
77		「天馬のように走れ」 那須田稔(1931-) ひくまの出版[2007] 静岡県出身の書家・川村麟山(1882-1969)。神童と言われながらもおごらずに、真摯に学び成長する姿を描く。
	916	
78		「西遊記」(上・中・下) 呉承恩(1500-1582)、伊藤貴彦/編訳 岩波少年文庫547-549[2001] 花果山の石から生まれた孫悟空は、インドへ経典を取りに行く三蔵法師を助け、冒険の旅へ。72通りの変化の術を駆使。
	923	



79		「シェイクスピア物語」(上・下) ラム、厨川圭子/訳 信成社文庫4035,4036[2004] イギリスの古典の名作、シェイクスピア(1564-1616)の戯曲の中から20編を選び、少年少女向けに書き直した完訳版。
80		「赤毛のアン」シリーズ(全10巻) ルーシー・モード・モンゴメリ(1874-1942)、 村岡花子ほか/訳、新潮文庫[2008] 孤児のアンが、プリンスエドワード島の美しい自然の中で、周囲の人々の愛情に育まれ、明るく前向きに生きていく姿を描く。
81		「秘密の花園」 フランシス・エリザ・バーネット(1849-1924)、 龍口直太郎/訳、新潮文庫[1993] 両親を亡くし、大きな屋敷に引き取られたメアリー。3人の少年少女が、不思議な花園を中心に成長する愛と友情の物語。
82		「宇宙への秘密の鍵」(全3巻) ルーシー&スティーヴン・ホーキング、 さくまゆみこ/訳、岩波書店[2008-2011] 楽しいファンタジーとともに宇宙の知識を自然に身につけられる作品。科学コラムや美しい宇宙の写真も見どころ。
83		「穴」 ルイス・サッカー(1954-)、幸田敦子/訳 講談社[1999] 代々ツイていないイェルナッツ家に生まれたスタンレーが、悲惨な運命を大逆転させる痛快な冒険物語。
84		「ナゲキバト」 ラリー・パークダル、片岡しのぶ/訳 あすなろ書房[2006] 両親を事故で亡くし祖父に引き取られた少年は、人はいかに生きるべきかを日常の様々なできごとを通して教えられる。
85		「モギ ちいさな焼きもの師」 リンダ・スー・パーク(1960-)、 片岡しのぶ/訳、あすなろ書房[2003] 12世紀後半の韓国、青磁の村を舞台に、恵まれない環境の中から自分の夢に向かって努力する少年の姿を描く。
86		「パレエものがたり」 アデル・ジェラス(1944-)、神戸万知/訳 岩波ジュニア新書204[2011] パレエと音楽は深いつながりがある。広い芸術世界を学んでいくための基礎知識。「白鳥の湖」をはじめ6話収録。

87		「怪談—小泉八雲怪奇短編集」 小泉八雲(1850-1904)、平井呈一/訳 信成社文庫3155[1991] 「雪女」「耳なし芳一の話」など、日本に古くから伝わる怪奇物語。小泉八雲の短編集から厳選した19話を収録。
88		「あしながおじさん」 ジーン＝ウェブスター(1876-1916) 恩地三保子/訳、信成社文庫4005[1985] 孤児のジュディは顔も名前も知らない「あしながおじさん」からの援助で大学に入学し、その様子を手紙で報告する。
89		「ケストナーナチスに抵抗し続けた作家」 クラウス・コードン(1943-)、 那須田淳、木本栄/訳、信成社[1999] ナチスに抵抗し、人々に自由と平等の意味を訴え続けたドイツの児童文学作家ケストナー(1899-1974)の生涯を追う。
90		「アルプスの少女ハイジ」 ヨハンナ・シュビリ(1827-1901)、 関泰祐・阿部賀隆/訳、角川文庫[2006] アルプスの山奥で暮らす祖父の家に来たハイジ。大自然の描写や明るく無邪気なハイジが人々を変えていくのが魅力的。
91		「あのころはフリードリヒがいた」 ハンス・ペーター・リヒター(1925-1993) 上田真而子/訳、岩波少年文庫520[2000] ヒトラー政権下のドイツに生きたユダヤ人少年フリードリヒの悲劇の日々を、ドイツ人少年の目を通して描く。
92		「はてしない物語」 ミヒャエル・エンデ(1929-1995) 上田真而子・佐藤真理子/訳、岩波書店[1982] 10歳の少年バスチアンは本の中に吸い込まれ、滅亡寸前のファンタジーエンの危機に立ち向かう。奥深いファンタジー。
93		「モモ」 ミヒャエル・エンデ(1929-1995) 大島かおり/訳、岩波書店[1976] 時間泥棒に盗まれた時間を人間に取り返してくれた少女モモの不思議な物語。時間とは何かを問う名作。
94		「車輪の下」 ヘルマン＝ヘッセ(1877-1962) 秋山英夫/訳、信成社文庫4016[1977] 周囲の人々の期待にこたえようと勉強にうちこみ、神学校に入学したハンスだったが…ヘッセの代表的自伝小説。

95		「アンネの日記」(増補新訂版) アンネ・フランク(1929-1945) 深町眞理子/訳、文藝春秋[2003] ドイツ系ユダヤ人としてナチスの迫害を受けたアンネが、約2年間の隠れ家生活の中で綴った日記。
96		「レ・ミゼラブル」(上・下) ヴィクトル・ユーゴー(1802-1885)、豊島与志雄/編訳 岩波少年文庫536・537[2001] 一切のパンを盗んだために19年間も監獄生活を送ることになったジャン・ヴァルジャンの波瀾に満ちた生涯を描く。
97		「星の王子さま」(オリジナル版) サン＝テグジュペリ(1900-1944) 内藤濯/訳、岩波書店[2000] 著者の生誕100年を記念して作られた復刻版。真実を見ることのできる「心の目」を持つことの大切さ、むずかしさ。

98		「木を植えた男」 ジャン・ジオノ(1895-1970) 寺岡義/訳、あすなろ書房[1992] フランスの山岳地帯にただ一人とどまり、荒れ果てた地を緑の森によみがえらせた男の半生を描く。短編映画化。
99		「カモメに飛ぶことを教えた猫」 ルイス・セプルベダ(1949-)、 河野万里子/訳、白水Uブックス[2005] 絶命する寸前、カモメから黒猫のゾルバに託された一つの卵。卵を孵しヒナを育てるためゾルバは仲間たちと協力する。
100		「長い長いお医者さんの話」 カレル・チャペック(1890-1938) 中野好夫/訳、岩波少年文庫002[2000] チェコの文豪・チャペックの楽しい童話集。親切な町のお医者さんや郵便屋さんなどが活躍する、しゃれたおとぎ話9編。

(2012年5月作成)

# おもしろかった本ベスト10

リスト No.	書名	著者名	出版社名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

1年	2年	3年	氏名
組	組	組	